

点検評価ポートフォリオ 名桜大学

2024年10月

目 次

大学の概要	1
I「地域貢献活動、教育活動の取組み」に関する点検評価資料	3
1)地域貢献活動の取組み	4
タイトル:「地域での健康活動支援について」	
参考資料	7
2)教育活動の取組み	20
タイトル:「学生を対象としたハラスメント防止策について」	
参考資料	22

大学の概要

(1) 大学名

名桜大学

(2) 所在地

沖縄県名護市為又 1220-1

(3) 学部等の構成

学 部：国際学部、人間健康学部

研究科：国際文化研究科国際文化システム専攻（修士課程）

国際文化研究科国際地域文化専攻（博士後期課程）

看護学研究科看護学専攻（博士前期課程）

看護学研究科看護学専攻（博士後期課程）

スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻（修士課程）

専攻科：助産学専攻科

その他の組織：リベラルアーツ機構（言語学習センター、数理学習センター、ライティングセンター）

(4) 学生数及び教職員数（令和6年5月1日）

学生数：学群/学部 2,263名、大学院 34名

専任教員数：120名（学長及び助手3名含む）、

専任職員数：58名

(5) 理念と特徴

○建学の精神

「平和・自由・進歩」

1) 名桜大学は、平和を愛し、自由を尊重し、人類の進歩と福祉に貢献する国際的教養人と専門家の育成を建学の精神とする。

2) 平和を希求し 自由を尊重し進歩を標榜する。

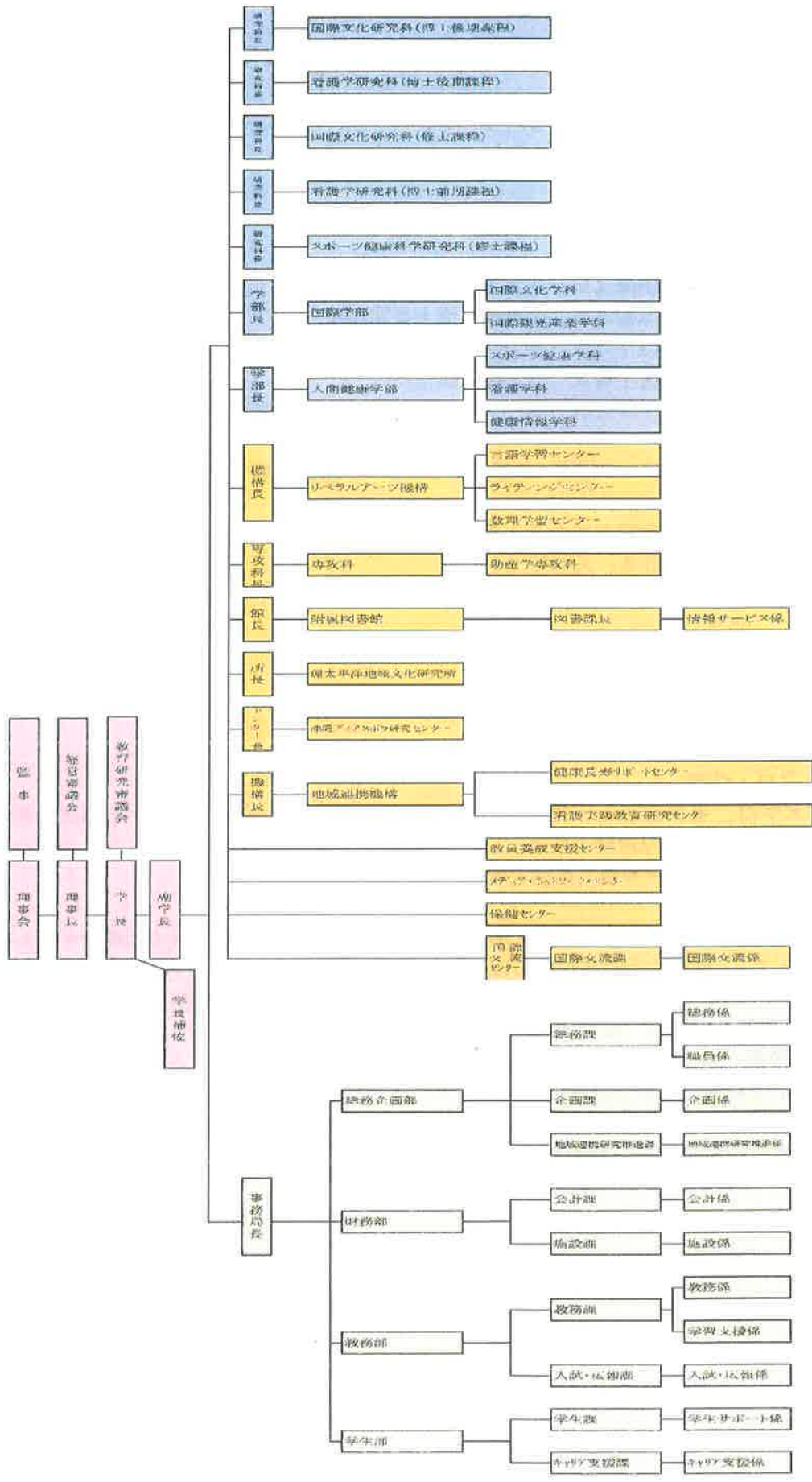
名桜大学は、建学の精神「平和・自由・進歩」を基本理念とし、「国際社会で活躍できる人材の育成」を教育目標として、次のような人材を育成することを目指す。

1. グローバル化に対応できるコミュニケーション力（英語を含む外国語力、母語によるライティング力）、数理的分析能力、ICT 活用力を持った人材

2. 豊かな教養と専門性、総合的な判断力と論理的な思考力、創造性、協調性、積極性、自立性、主体性を併せ持ち、生涯学び続けることができる人材

3. 自由な発想のもと、俯瞰的に問題を把握し解決する能力を有し、知性と感性のバランスのとれた円満な人格を備えた国際的教養人

(6) 大学組織図



I 「地域貢献活動、教育活動の取組み」に関する点検評価資料

1) 地域貢献活動の取組み

タイトル	地域での健康支援活動について																																																												
取組の目標	地域の健康課題の改善に向けて、学生・教員・住民との協働参画による健康支援活動を継続する。																																																												
取組の内容、成果	<p>(1)「朝市健康支援活動」について</p> <p>名桜大学人間健康学部看護学科は、平成 19 (2007) 年に開設されました。参画型看護教育を理念に掲げ、様々な場において学生が主体的に関わることを意図したカリキュラムを構築しています。住民が主人公になる保健・医療・福祉の場づくりができる看護職者を目指して、学生らは1年次から積極的に地域活動に参加しています。</p> <p>活動の1つに「朝市健康支援活動」があります。看護学科が開設した年、名護市宮里区公民館で再開された「朝市」の会場で、看護学科の教員が健康測定を始め、学生が参加するようになったのがきっかけで、学生による健康支援ボランティア活動が活発に行われるようになりました。</p> <p>平成 21 (2009) 年に、看護学科ボランティアサークル The Volunteer Activity Group (通称 VAG : ヴァグ) が設立されました。VAG は、大学内や地域の看護・福祉に関するボランティア活動等の窓口を担い、ボランティア活動を通して幅広い視野を養うとともに、多くの学生にボランティア活動の機会を提供することを目的としています。学生同士、教職員、地域の住民と、ゆるやかにつながりながら、すそ野を広げてきたボランティア団体で、現在 200 人程の学生が登録しています。「今、自分達にできることから始めよう！一気になったらレスポンスー」を目標に、住民の健康支援と交流の場づくりを続けています。毎月、多くの学生に参加を呼び掛け、1年次から4年次まで15人前後の学生と数人の教員が大学近隣の公民館で毎月1回、住民が開催している「朝市」等で、血圧測定や健康相談を行っています。学生らは事前調整を行い、当日の役割分担や関連資料の作成等、先輩の活動を引き継いでいきます。</p> <p>朝市健康支援活動の対象者(被支援者)は高齢者の方が多く、当初、若者の参加は殆どありませんでした。健康を保持・増進していくためには、若い頃から健康に関心を持つことが重要です。そこで、働く世代の生活習慣病の重症化予防とヘルスリテラシー向上に向けた協働体制の構築を目指し、働き世代を対象に、令和元(2019)年から、事業所を訪問し、新たな「健康支援活動」を取り入れました。コロナ禍で一時中断しましたが、18年間続いているこれらの活動は、現在では大学近隣および県内12か所¹⁾で展開しています。</p> <p>令和5(2023)年度「朝市健康支援活動」実施状況(年間合計)</p> <table border="1" data-bbox="403 1312 1465 1827"> <thead> <tr> <th>活動名称</th> <th>発足</th> <th>活動場所</th> <th>学生・教員 参加人数</th> <th>対象者 (被支援者)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>宮里朝市</td> <td>2007</td> <td>宮里区公民館</td> <td>174人</td> <td>264人</td> </tr> <tr> <td>チームガッキー</td> <td>2010</td> <td>与儀公園</td> <td>83人</td> <td>728人</td> </tr> <tr> <td>本部町役場健康支援活動</td> <td>2011</td> <td>本部町役場</td> <td>98人</td> <td>208人</td> </tr> <tr> <td>為又朝市</td> <td>2014</td> <td>為又区公民館</td> <td>160人</td> <td>226人</td> </tr> <tr> <td>大北朝市+青空南のマルシェ</td> <td>2015</td> <td>大北区公民館</td> <td>258人</td> <td>170人</td> </tr> <tr> <td>やんばる日曜日</td> <td>2016</td> <td>今帰仁村中央公民館</td> <td>74人</td> <td>68人</td> </tr> <tr> <td>ゆいまーるヘルスプロジェクト</td> <td>2018</td> <td>新垣産業</td> <td>64人</td> <td>33人</td> </tr> <tr> <td>勝山軽トラ市</td> <td>2020</td> <td>勝山シークワサー</td> <td>91人</td> <td>192人</td> </tr> <tr> <td>みちすー</td> <td>2022</td> <td>地域の公民館等</td> <td>17人</td> <td>65人</td> </tr> <tr> <td>COT</td> <td>2023</td> <td>白浜公民館</td> <td>15人</td> <td>64人</td> </tr> <tr> <td>ゆんたくサロン</td> <td>2023</td> <td>古宇利公民館</td> <td>24人</td> <td>21人</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2)「朝市ゆんたく健康まつり」について ※コロナ禍で一時中断。今年度再開予定！</p> <p>健康づくりは、動機づけと継続支援が重要です。住民との交流が継続の契機となるよう、年1回の報告会を開催しています。最も長い宮里区では、毎年12月、1年間の感謝を込めて、「朝市ゆんたく健康まつり」を学生らが開催します。沖縄では寒さが一段と厳しくなる冬至(トゥンジービーサ)の季節に、豚肉を入れたクファジュージー(炊き込みご飯)を先祖に供え、家族の健康と繁栄を祈るという慣</p>	活動名称	発足	活動場所	学生・教員 参加人数	対象者 (被支援者)	宮里朝市	2007	宮里区公民館	174人	264人	チームガッキー	2010	与儀公園	83人	728人	本部町役場健康支援活動	2011	本部町役場	98人	208人	為又朝市	2014	為又区公民館	160人	226人	大北朝市+青空南のマルシェ	2015	大北区公民館	258人	170人	やんばる日曜日	2016	今帰仁村中央公民館	74人	68人	ゆいまーるヘルスプロジェクト	2018	新垣産業	64人	33人	勝山軽トラ市	2020	勝山シークワサー	91人	192人	みちすー	2022	地域の公民館等	17人	65人	COT	2023	白浜公民館	15人	64人	ゆんたくサロン	2023	古宇利公民館	24人	21人
活動名称	発足	活動場所	学生・教員 参加人数	対象者 (被支援者)																																																									
宮里朝市	2007	宮里区公民館	174人	264人																																																									
チームガッキー	2010	与儀公園	83人	728人																																																									
本部町役場健康支援活動	2011	本部町役場	98人	208人																																																									
為又朝市	2014	為又区公民館	160人	226人																																																									
大北朝市+青空南のマルシェ	2015	大北区公民館	258人	170人																																																									
やんばる日曜日	2016	今帰仁村中央公民館	74人	68人																																																									
ゆいまーるヘルスプロジェクト	2018	新垣産業	64人	33人																																																									
勝山軽トラ市	2020	勝山シークワサー	91人	192人																																																									
みちすー	2022	地域の公民館等	17人	65人																																																									
COT	2023	白浜公民館	15人	64人																																																									
ゆんたくサロン	2023	古宇利公民館	24人	21人																																																									

習があります。「朝市ゆんたく健康まつり」は、地域の高齢者と一緒に、冬至ジュースや野菜スープをつくり、住民と交流できる「場」となっており、特に県外の学生たちは、沖縄の風習に触れる体験となっています。健康をテーマにした学生の地域貢献は、地域からも高く評価されています。(平成 25 (2013) 年 12 月 16 日 OTV スーパーニュース 県民の健康長寿を考える「イチキロヘラス」のコーナーで紹介されました。)

(3)「プロジェクト学習」としての取組みについて

平成 29 (2017) 年、10 年以上継続してきた「朝市健康支援活動」をプロジェクト学習²⁾に位置付け、情報収集⇒分析⇒課題抽出⇒計画立案⇒実施⇒評価の PDCA サイクルを意識した活動へと発展させることを目標に取り組みました。

期 間：平成 29 (2017) 年～令和元 (2019) 年の 3 年間

名 称：『朝市健康支援プロジェクト』

協力団体：宮里区、為又区 (活動期間の長い 2 つの区を選定)

概 要：

1 年目	16 人 参加	朝市健康支援活動の課題抽出－分析 健康支援活動の継続と改善に向けた取り組み
2 年目	17 人 参加	朝市健康支援活動増進に向けたプログラムの構築－実践 健康支援活動の継続と改善に向けた取り組み
3 年目	30 人 参加	朝市健康支援活動増進に向けたプログラムの充実－評価 健康支援活動の継続と伝承に向けた取り組み

(4) COI 事業「やんばる版プロジェクト健診」について

看護学科設置とともに始まった「朝市」健康支援活動などの地域の健康づくりが中路重之弘前大学学長補佐の目に留まり、平成 30 (2018) 年に名桜大学は COI 連携拠点大学に採択されました。

COI 事業³⁾とは、「10 年後のあるべき社会の姿、暮らしのあり方をイノベーションにより産学連携で実現する」とした文部科学省のビジョンです。採択を受け、教員および学生の協力の下、生活習慣、ヘルスリテラシー、骨密度、腹部エコー、脈波、ゲノムデータ、腸内細菌叢、血液・尿検査、内臓脂肪、体力などおよそ 165 項目を測定する「やんばるプロジェクト健診」を毎年実施しています。こうして収集された健康ビッグデータを解析し、住民の疾患発症予防や健康増進に寄与したいと励んでいます。この事業は 10 年間の大型プロジェクトであり、長寿県復活の要となることが期待されています。

(5) 学生ボランティア団体助成事業について

令和 4 (2022) 年度、当時 VAG の代表学生であった石川淳貴さん (看護学科 3 年次) が、一般社団法人学生サポートセンターが主催する「2022 (第 20 回) 学生ボランティア団体助成事業」において、VAG での活動体験レポートが優秀レポートに選ばれ、同年 2 月 6 日には東京で開催された表彰式にも参加し、VAG の活動紹介の機会をいただき PR を行った。

自己評価

活動の成果として、①活動の継続と発展：コロナ禍で一時中断後も順次再開し、参加学生数・対象者数・開催地域が拡大したこと、②健康支援活動の「場づくり」の効果：住民と学生の交流の場、多世代 (子供から高齢者) が交流できる場、多様な背景の人の居場所になる場が形成されていること、③健康支援活動モデルの構築：地域のニーズに応じて、学生主体で同モデルを活用した企画運営ができるようになったこと等が挙げられる。

学生への教育効果として、①活動団体の組織づくりを学ぶ体験：執行部を中心に会則改定や総会での合意形成等、民主的手続きの在り方を実践的に学ぶ体験となっていること、②健康支援に関する知識や技能を学ぶ体験：コミュニケーション力や測定技術、健康相談時の対応力やアセスメント能力などの実践的学びの場となっていること、③住民と馴染みの関係を築いていく体験：対象理解や信頼関係を築く上での素養を身につける機会となっていること。

住民への効果として、①社会参加の機会：多世代、住民同士の交流 (楽しみ) の場、②健康づくりへの動機づけ：測定結果の即時返却と気軽に相談できる場、③健康維持・管理へのサポート：専門職との連携・繋がりになっていること。

¹ 勝山軽トラ市（(有) 勝山シークワサー敷地内）、やんばる日曜日（今帰仁村中央公民館）、大北朝市／青空南のマルシェ共催（大北区公民館）、宮里朝市（宮里区公民館）、為又朝市（為又区公民館）、本部町役場保健支援活動（本部町役場）、ゆいまーるヘルス（事業所）、チームガッキー（与儀公園で生活困窮者の健康支援）、みちすー（やんばる内で生きづらさを抱えた子供たちの居場所づくり）、COT（大宜味村 ゆんたく健康支援）、ゆんたくサロン（古宇利の高齢者との交流を兼ねた健康支援）、国頭村朝市健康支援（国頭村道の駅）の12か所で開催

² 「プロジェクト学習」（選択2単位・2年次以上）は、教養教育科目＞共通コア科目＞ライフデザイン科目（注1）に位置付けられている科目であり、地域と協働した地域社会における課題の解決や学生の主体的な学びの推進を目的としている。

- ・学生自らが地域社会に根差した課題・問題を解決していく中で、生活設計に必要な主体性、創造性、計画性を獲得することを目指している。
- ・そのため、この授業では正解のある課題は与えられない。
- ・専攻や学科の壁を超えて集まった学生たちが、チームワークを発揮しながら、モノづくり、システムづくりなどの解決策を提案する。

下表のとおり、北部12市町村を主とした地域課題の解決や地域資源の活用をテーマとした取り組みを学生達が行っている。

開講年度	テーマ
令和3(2021)年度	空手 道の駅連携 沖縄北部方言 障がい者のヘルスリテラシー向上教育の実践
令和4(2022)年度	沖縄北部方言 障がい者のヘルスリテラシー向上教育の実践
令和5(2023)年度	沖縄北部方言 障がい者のヘルスリテラシー向上教育の実践
令和6(2024)年度	伊江島ファン創出プロジェクト 名護親方と六論衍義

（注1）ライフデザイン科目には、「プロジェクト学習」の他に、「大学と人生」「ライフデザイン特別講義」「キャリアデザイン」も開設されており、学生が主体性と創造性をもち、大学で学ぶことの意義を理解し、生涯の生活設計を描き、実現するために必要な知識や方法を修得することを目標としている。

³ COI事業「やんばる版プロジェクト健診」は、企業のみ、あるいは、大学のみでは実現が困難な革新的なイノベーションを試みる、産学連携に基づく「イノベーションプラットフォーム」を整備することを目的とした、「革新的イノベーション創出プログラム(Center of Innovation Science and Technology based Radical Innovation and Entrepreneurship Program, COI STREAM)」を文部科学省は平成25(2013年)にスタートさせた。

この「COI STREAM」は、基礎研究の段階から将来における実用化を目指す、産学連携に基づく研究開発を支援するプログラムである。この競争的資金である「COI STREAM」を獲得した、全国にある複数あるCOI拠点の一つとして、弘前大学COIがある。弘前大学COIは青森県弘前市において疫学研究、「岩木健康増進プロジェクト (Iwaki Health Promotion Project, IHPP)」を行い、青森県の「短命県返上」を目指し、疾患の予兆を行う方法論の開発、予防法の開発に取り組んでいる。

この弘前大学COIの連携拠点の一つとして、名桜大学は「やんばる」において疫学研究、「やんばる版プロジェクト健診 (Yambaru Health Promotion Project, YHPP)」を行い、「やんばる」のデータに基づく、疾患の予兆を行う方法論の開発、予防法の開発に取り組んでいる。

The Volunteer Activity Group

●The Volunteer Activity Group（通称 VAG：ヴァグ）とは？

名桜大学のボランティアサークルで、大学内や地域の看護・福祉に関するボランティア活動等の窓口を担い、ボランティア活動を通して幅広い視野を養うとともに、活動の機会を提供することを目的として、2009年（H21）に設立されました。

看護学科開設年度（H19年）に、名護市宮里区公民館で再開された「朝市」の会場で、看護学科の教員が健康測定を始め、看護学科の学生が参加するようになったのがきっかけで、学生による健康支援ボランティア活動が活発に行われるようになりました。



●VAGの活動

活動名	活動内容	活動の対象者
勝山軽トラ市	健康支援活動 ・健康 check ! ・ゆんたく会	来場した地域住民
やんばる日曜日		
大北朝市（青空南のマルシェ共催）		
名護市営市場 （コロナ禍で休止後、調整中）		
宮里朝市		
為又朝市		来場した地域住民や役場職員 依頼があった事業所職員 会場での炊き出しへの参加者
ゆんたくサロン		
本部町役場健康支援活動		
ゆいまーるヘルス		健康支援活動 キャトルナイト 他
チーム・ガッキー		
COT（地域文化・健康支援活動）	居場所づくり	来場した子どもたち
みちすー		

●VAGの活動予定と場所

第1日曜日	為又朝市：為又区公民館
第2日曜日	大北朝市：大北区公民館（青空南のマルシェ共催）
第2水曜日	本部町役場健康支援活動：本部町役場1階ロビー
第3日曜日	宮里朝市：宮里区公民館 やんばる日曜日、名護市営市場
第4日曜日	勝山軽トラ市：勝山シークワサー
月1回	ゆいまーるヘルス：依頼があった事業所、COT
月2回	チーム・ガッキー：炊き出しが行われる場所・与儀公園など
月2回	みちすー：こどもの居場所

VAG : The Volunteer Activity Group

名桜大学看護学科ボランティアサークル



VAGは、住民が自ら栽培した野菜などを販売する「朝市」の場（公民館）を活用して、毎月1回、血圧や体組成測定などを行い、健康測定や健康相談など、住民との“ゆんたく”を大事にしながら、住民自身の健康づくりを支援する団体です！※活動への参加は全て無料です

～主な活動～

<p>大北朝市</p> <p>場所：大北公民館 第2日曜日 9:00～11:00 「青空南のマルシェ」とタイアップ開催。 最近はお年寄りだけではなく、若い人の参加が増えました</p>	<p>為又朝市</p> <p>場所：為又公民館 第1日曜日 9:00～11:00 健康測定だけでなく、地域の方による惣菜の販売もあり、お茶を飲みながらゆっくりできます♪</p>	<p>やんばる日曜日</p> <p>場所：今帰仁中央公民館 第3日曜日 10:00～12:00 若者から高齢者まで、誰でも気軽に参加できます。楽しい雰囲気づくりを心がけて活動しています♪</p>
<p>宮里朝市</p> <p>場所：宮里公民館 第3日曜日 7:00～10:00 VAGの中で一番参加者が多い活動です！ ゆんたくを交えながら楽しく健康測定しています♪</p>	<p>勝山軽トラ市</p> <p>場所：(有)勝山シクワサー敷地内 第4日曜日 8:00～10:00 幅広い年代の方が参加しています。 出店もあり健康測定しながら、ゆんたくもできて楽しいです</p>	<p>チームガッキー</p> <p>場所：与儀公園 第2、第4日曜日 11:00～13:00 南部の生活困窮者を対象とした活動で、朝市とは違った雰囲気気で活動を楽しめます♪</p>
<p>本部町役場健康支援活動</p> <p>場所：本部町営市場内 月1回～2回(平日の空きコマを使って2時間程度) とても落ち着いた雰囲気、人数は少ないですが、住民1人1人とゆっくりお話ししながら健康測定を行うことができます。</p>	<p>ゆいまーるヘルスプロジェクト</p> <p>場所：名護市内の事業所 時期：不定期(随時募集します) 事業所に出向き従業員の方々の健康測定をしています♪対象の年齢層は比較的若く、気さくで優しい人が多く楽しいです！</p>	<p>みちすー</p> <p>場所：旧崎本部小学校 他 時期：月2回土曜日10時～17時開催 かわいい子どもたちと一緒にレクリエーションを行っています。また、親の子育ての休息としてレスパイトケアを行っています。子供と遊ぶことが好きな人や関わってみたい人など沢山の人の参加を待っております。</p>

～測定項目～

<p>体組成</p> <p>体重やBMI、体脂肪率や基礎代謝などがわかります。</p>	<p>血管年齢</p> <p>動脈の硬さを見るものです。年齢別の平均と比べることで測定できます。</p>	<p>血圧</p> <p>血圧は常に変動しているので普段の値を知ることが大切です。</p>
<p>SpO₂</p> <p>血中で、ヘモグロビンがどれくらい酸素と結合しているかを見ます。</p>	<p>ロコモティブシンドローム</p> <p>骨、関節、軟骨、椎間板、筋肉などの運動機能の程度を測定します。</p>	<p>骨ウェーブ</p> <p>手首で骨の状態(強さ)を測定することができます。</p>
<p>握力</p> <p>握力を測ることで全身筋力の程度を確認できます。</p>	<p>スパイロメーター</p> <p>息を吸ったり吐いたりする肺活量の測定をすることができます。</p>	<p>骨密度</p> <p>骨を構成するカルシウムなどミネラル成分から骨密度を測定します。</p>



Instagram



作成日：2022年12月29日 作成者：名桜大学看護学科 VAG広報 前中康希

●活動風景

この旗が目印！



学生と教員が協同で、地域住民の健康づくりのお手伝いを行っています。一緒にお話するだけでも大歓迎！

大北朝市:
大北区公民館



チームガッキー
与儀公園にて健康相談



ゆいまーるヘルス:事業所を訪問して測定会!



みちすー



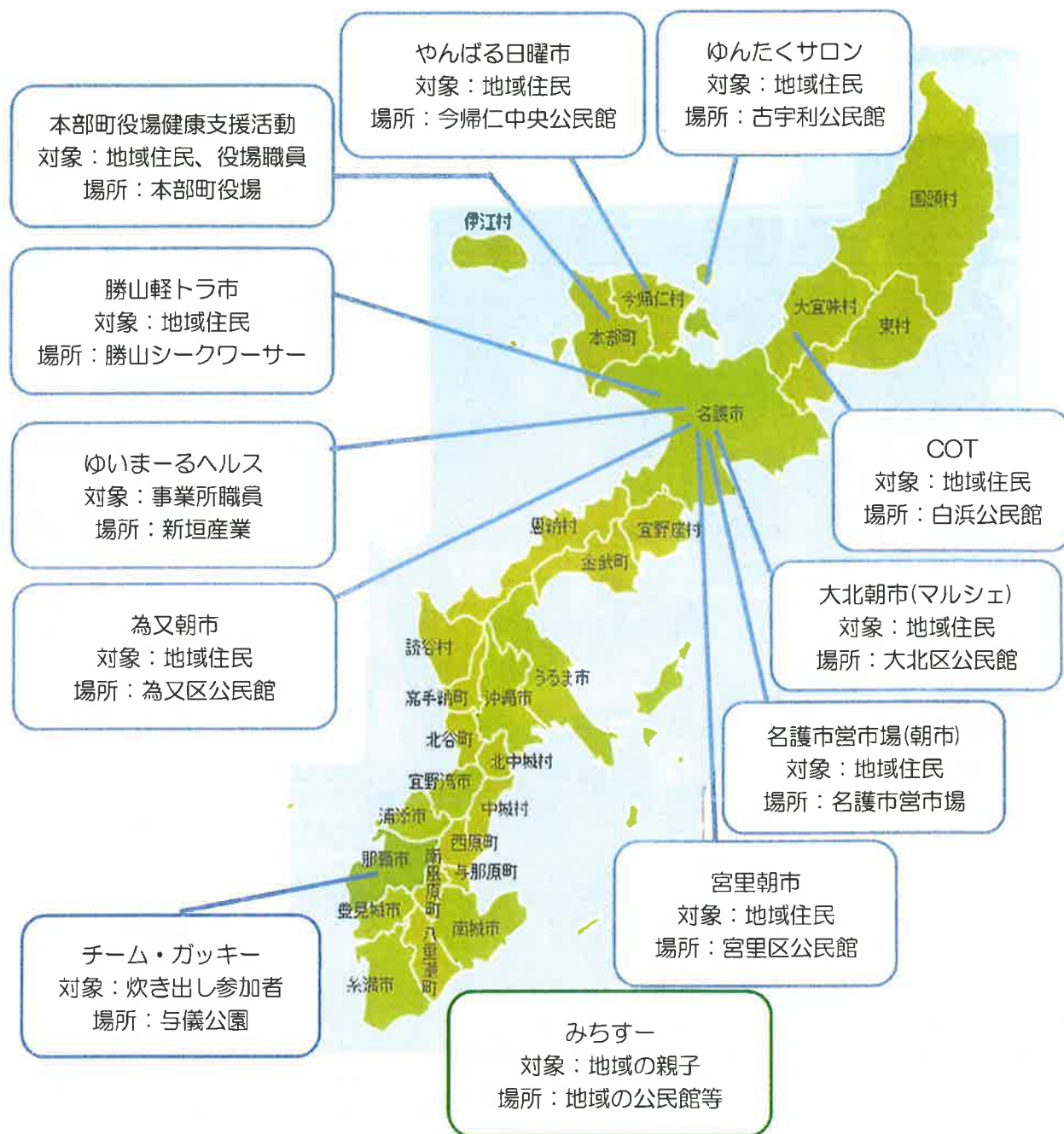
やんばる日曜市:今帰仁村コミュニティセンター



勝山軽トラ市:勝山シークワサー



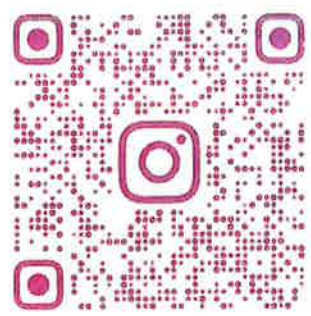
宮里朝市:宮里公民館



ぜひ、いらしてください！
お待ちしております！



名桜大学ボランティアサークル (VAG)
代表：西山来貴 (4年) 高山知奈 (3年)
顧問：名桜大学看護学科 0980-51-1223
溝口広紀 (h.mizoguchi@meio-u.ac.jp)



MEIO_VAG



名桜大学看護学科が地域の人々と共に創造する 朝市健康支援活動



沖縄の現状

高齢化率：19.6%
 高齢化率2040年見込み：30.3%
 肥満率
 ・20～69歳男性の肥満の割合は、約4割で全国と比べると高い
 ・40～69歳女性の肥満の割合は、約3割で全国と比べると高い

平成27年は総務省「国勢調査」
 平成52年は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」

朝市健康支援活動とは

H19年度看護学科開設時より継続。
 公民館などの地域の場所を借りて健康測定などを行い、住民の健康支援を行うボランティア活動。

為又地区・宮里地区・大北地区 本部・今帰仁などでさまざまな健康増進活動が行われている。

朝市支援プロジェクトは其中でも為又地区と宮里地区をピックアップして行った。



しかし

<課題>

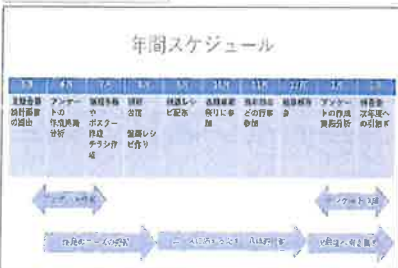
- 参加学生の固定化や新規住民の減少
- 地域住民の要望を実現できない
- 正常値を把握していないため、適切なアドバイスが出来ない

これらの課題を次回へ持ち越すことがないように…

<目標>

- 朝市健康増進活動への住民及び学生の参加者数を増やす
- 住民のニーズを抽出し、解決できそうなことを達成する
- 手帳に記入した数値をデータ化して1年後には基準値に近い人を増やす

活動内容



- 参加者数を増やす
- のぼりを作る、ポスターを張る
- 住民のニーズを抽出する
- アンケートの実施し、ニーズの把握
- 基準値に近い人を増やす
- 勉強会を行う、測定値をデータ化する

アンケート結果(宮里)
 23名(男性10名、女性13名)
 40～90代
 ・朝市に対する満足度 満足19名、やや満足4名
 ・学生に対する満足度 満足21名、やや満足2名
 ・抽出されたニーズ
 →一緒に料理を作りたい
 健康に良い運動をしたい



これらの活動の資金は、名桜大学地域貢献活動等支援金として、自分たちで申請(地域貢献活動に対する支援金)し採択された。30万円の運営資金を獲得した。



結果

宮里朝市
 日時・・・毎月第三日曜日、午前7時～9時
 場所・・・宮里公民館
 活動内容・・・体重、腹囲、血圧、血管年齢、骨ウェーブなど

【宮里朝市】平成29年度毎月参加者数

4月 23名	9月 20名
5月 24名	10月 26名
6月 20名	11月 28名
7月 26名	12月 27名
8月 26名	H30 1月 40名

継続してきてくれた住民の数
 平成29年度4月～12月
 宮里朝市 全参加者数 125名
 平成29年度参加 282名(4回以上) 37名
 3回以上参加 28名
 4回以上参加 28名

一番長く続いている健康活動であり、住民同士や学生との距離が近いことが特徴である。学生の参加人数が伸び悩んでいることが課題

測定内容や学生の対応など、満足であるとのアンケート結果とともに、継続してきてくれる住民や新規の方も増えた。



為又朝市
 日時・・・毎月第一日曜日、午前8時～12時
 場所・・・為又公民館
 活動内容・・・体重、握力、血圧、血管年齢、骨ウェーブなど

平成29年度毎月参加者数

4月 22名	9月 休み
5月 休み	10月 24名
6月 12名	11月 休み
7月 36名	12月 27名
8月 25名	H30 1月 休み

継続してきてくれた住民の数
 平成29年度4月～12月
 為又朝市 全参加者数 61名
 平成29年度参加 146名(4回以上) 23名
 3回以上参加 23名
 4回以上参加 23名

毎回終了後には付箋紙に記入や全体の反省点などを書きだし、次回へ活かす!!

活動の成果と今後の展望

成果	反省・課題
<ul style="list-style-type: none"> 見えなかった課題(運動・学生との関わり)をアンケートを活用しながら発見した 勉強会を行うことで、詳細なアドバイスなどを行うことが出来、質の向上に繋がった。 目標を決めて、具体的な行動(アンケート・健康レシピづくり)に移すことができた 役割を分担しながら、情報共有して取り進めることができた 	<ul style="list-style-type: none"> 成果が見られたもの(BMI・手帳の改善)と、見られなかったもの(参加者数の増加)があった 現1年生への引き継ぎが上手くできていない 住民の変化を見るには、1年という期間は短かった。継続して分析する。 データ整理に時間がかかった

これらの活動の成果を12月に住民のみなさまに報告会という形で発表した

アンケートをもとに見えなかった住民の方の要望や課題が明確となり、実践できた。目標を決め、具体的な活動へ繋げることが出来たが、成果が見られたものと見られなかったものがあり、継続していく必要がある。そのためにも今後も継続して地域住民と学生・教員と協働していく必要がある。

プロジェクト学習 最終発表会

2年目の今年は、「運営体制の強化」を目指し、組織を「学習課」、「カフェ課」、「広報課」、「総務課」に再編し、それぞれの役割を担い、課題解決へ向けて取り組みました。

学習課



[目標]

学生の知識向上を目指し朝市参加人数を増やす。

「学習課」は、朝市参加者へ向けた健康測定の実施方法や結果説明に必要な知識習得と、ボランティア参加学生の増加を目標とした。



オレンジリング。認知症サポーター養成講座の受講の証。

[活動内容]

- 勉強会の企画・実施（SPO2、体重、骨ウェーブなど）
- 健康測定記録用紙の作成、健康測定データ・ファイルの整理
- 認知症サポーター養成講座の受講
- 健康測定器具の操作マニュアル作成



活動の振り返り

良かった点

- ・「学習課」の企画内容に対して、毎回目標を立てて計画的に進めることができた
- ・学生の測定結果に関する知識向上につながった

課題点

- ・「学習課」の活動内容をPI全体に周知することができなかった
- ・学習会の対象者を学生のみに絞っていた

改善点

- ・「学習課」の活動内容がわかりにくいのでアピールする必要がある
- ・学生だけでなく、住民も学習会の対象にする

月	取り組み内容
5月	勉強会1回目；SPO2、体重、骨ウェーブ
6月	勉強会2回目；①認知症サポーター養成講座 ②血圧、腹囲、血管年齢
7月	勉強会3回目；スパイロメーター、味覚チェック、握力
10月	健康測定データ・ファイルの整理
11月	健康測定データ・ファイルの整理 PI学習報告会の準備
12月	健康測定器具の操作マニュアル作成
1月	健康測定器具の操作マニュアル作成

[まとめ]

学習会を通して、地域住民の健康支援に必要な知識を身に付け、朝市での活動を通して住民の健康を支援し、さらに信頼関係を築くことができた。また、朝市に参加した学生達は、知識を深めたいという意欲の向上とともに、楽しさを見出しながら活動に参加するきっかけができた。

カフェ課

【目標】

- ・学生と地域の人々が楽しく“ゆんたく”できる場所を作る
- ・地域住民に、食を通して健康になってもらおう



平成 30 年度より新たにカフェ課を結成した。

1年間の取り組み内容とスケジュール

4月 「カフェ課」の結成 11月～ * ホットシークワサー

5～9月 事業所との話し合い 12月 1年間の報告会

10月 カフェ開始！
* シークワサージュース



シークワサー加工業者とメニューについて話し合い、10月から朝市においてカフェを開始した。11月からは季節に合わせてメニューにホットシークワサーを加えた。

良かった点



- ・カフェを開くことができた
- ・シークワサー笑費隊とのやりとりを早くから行えた。
- ・自分たちで一からレシピを考案し、取り組むことができた。
- ・初めての取り組みだったが、レシピ作成もうまくいき、住民の方にも好評だった。
- ・地域の住民の方とゆんたくする場ができた。

課題点

- ・カフェのメニューが少ない。
- ・朝市でカフェを専属で担当する学生がいない。
- ・カフェ利用者は女性が多く、男性が少ない。
- ・カフェで提供した商品についての宣伝がもっとできたらよかった。



改善点

- ・カフェの運営マニュアルを作る
- ・毎月の朝市で提供するメニューやコンセプト、次回のメニューの宣伝を広報に依頼する
- ・メニューを考案、試作し、PJのメンバーに評価してもらい、朝市で提供する。また、提供するにあたりそのメニューに使われている食材の効果や栄養素について勉強会を開催する。
- ・アンケートを実施し、健康ドリンクの評価を行う。



広報課

【目標】

プロジェクト学習の良さを広められるように、様々な形で広報していく。

【活動内容】

- ・やんばるがんばる一歩のロゴを作成
- ・オリジナルTシャツを作成
- ・各朝市のポスターを作成し、学内・学外に貼る
- ・朝市の旗を作成
- ・SNSアカウントを立ち上げる
- ・SNSアカウントで情報を発信 etc...



スケジュール表

月	活動内容
4月	・1年間のスケジュールを確定する
5月	・各班に分かれて活動開始する ・SNSのアカウント作成 ・学習課と協力して学習会の資料作成を行う ・オリジナルTシャツの作成を開始する
6月	・プロジェクト学習のロゴとマスコットキャラクターを作成 ・学習会のポスターを作成 ・カフェ課と連携してカフェのポスターを作成 ・朝市の手帳に貼る目録シートを作成、そして手帳に貼り付ける
7月	・Tシャツ完成
8月	・日本看護学教育学会第28回学術集会（神奈川県横浜）参加
10月	・朝市のPRポスターを作成
11月	・朝市での報告会資料を作成
12月	・朝市での活動報告の振り返り
1月	・報告会に向けて広報課の資料を作成

課題点

- ・余裕を持って取り組む
- ・Tシャツをもっと早く作成すべきだった



改善点

- ・スケジュール管理をしっかりして、ギリギリにならないようにする。
- ・為又・宮里朝市以外のポスターも作成する。
- ・ボランティア学生を増やすために、もっと活動内容の周知する。
- ・Tシャツは早めに作り、PJのPRやメンバーの結束を高める。



作成した朝市のポスター

日本看護学教育学会
第28回学術集会

マスコミを利用したPR活動



PJの活動内容について、日本看護学教育学会第28回学術集会において発表し、学生主体の地域活動に対し、好評を得た。

宮里・為又朝市のPRを目的としたポスターを作成し、学内外に掲示した。

朝市の活動について、琉球放送（RBC）と沖縄タイムスから取材を受けた。

良かった点

- ・目標を達成した（ポスター・Tシャツ・旗作成など）
- ・仲良く、そして協力できた（分担して仕事できた）
- ・学習課の手伝い（学習会）をできた



まとめ

様々な形（Tシャツ、ロゴマーク、マスコットキャラクター、ポスター、学内アナウンス、PR旗、SNS、マスコミ）でPJの活動をPRすることができた。結果、より多くの人に朝市健康支援活動を知ってもらう機会をつくることできた。さらに、看護系学会において発表することで、沖縄県に限らず、大学や専門学校の生徒や教員にこの活動を知ってもらうことができた。



COI事業・やんばる健診での学生ボランティア

文部科学省センターオブイノベーション (COI) 事業ってなに？

看護学科設置とともに始まった「朝市」健康支援活動などの地域の健康づくりが中路重之弘前大学学長補佐の目に留まり、2018年に名城大学はCOI連携拠点大学に採択されました。COIとは、「10年後のあるべき社会の姿、暮らしのあり方をイノベーションにより産学連携で実現する」とした文部科学省のビジョンです。採択を受け、教員および学生の協力の下、生活習慣、ヘルスリテラシー、骨密度、腹部エコー、脈波、ゲノムデータ、腸内細菌叢、血液・尿検査、内臓脂肪、体力などおよそ165項目を測定する「やんばるプロジェクト健診」を毎年実施しています。こうして収集された健康ビッグデータを解析し、住民の疾患発症予防や健康増進に寄与したいと励んでいます。この事業はこれから10年間続く大型プロジェクトであり、長寿県復活の要となることでしょう。

(名城大学長 砂川昌範)



血圧測定ブース



尿・便回収ブース



採血ブース受付



採血ブース受付



頭部インピーダンスブース



最終チェック

本年度のやんばる版プロジェクト健診は、11月24日(木)～26日(土)、28日(月)の4日間の日程で、名城大学北部生涯学習センターを会場として実施され、236名の方にご参加いただきました。運営スタッフ345名中、学生が253名と多くを占めています。学生スタッフの働きは健診運営にとっても重要で、特にボランティア参加の学生スタッフの活躍には目を見張るものがあり、心強く大いに勇気づけられました。来年度以降も、やんばる版プロジェクト健診が、ご参加いただく皆様自身の健康への気づきの機会となり、健康の維持・増進にお役立ていただけるよう努力して参ります。

(COI担当学長補佐 花城 和彦 教授)



沖縄県北部地区住民における「健康調査」及びこれに基づく「疾患予兆法」と「予防法」の開発

2022(第20回)

学生ボランティア団体 助成事業 ＜体験レポート募集＞

- 目的 学生ボランティア団体の活動体験レポートを募集することを通じて、活動の意義や必要性を情報発信するとともに、自由な発想と行動力によって社会貢献活動を行っている学生ボランティア団体を応援する
- 応募資格 学生を主たる構成員とするボランティア団体で過去2年以上の活動実績を有する団体の構成員（学生に限る）
- 応募方法 所定の申込書に、作成要領に沿って作成したレポートを添付して郵送により提出
- 選考 学生ボランティア活動への支援に関する選考委員会
- 助成金 一団体 10万円
- 発表 2022年12月中旬（予定）
（採択結果については、申込者及び学校へ通知するとともに、当財団ホームページに公表）

募集期間 2022年9月1日～10月14日

募集要項、申込書等は、学校担当窓口又は当財団ホームページにてご覧ください

<http://www.gakusei-sc.or.jp>

主催 一般財団法人 学生サポートセンター

E-mail: info@gakusei-sc.or.jp

「学生ボランティア団体活動体験レポート」

大学名	名桜大学
団体名	The Volunteer Activity Group (VAG)
作成者（所属学部学科・氏名）	人間健康学部看護学科・石川淳貴

タイトル：コロナ禍での健康支援活動—地域に学び、キャリアビジョンを描く—

1. 所属するボランティア団体の概要

私は、The Volunteer Activity Group n（以下 VAG）の第 8 代目リーダーを務めている。VAG は、2009 年 11 月に発足、13 年目を迎えた。1～4 年次まで、200 名余りの看護学生が入会している。学生同士、教職員、地域の住民と、ゆるやかにつながりながら、すそ野を広げてきたボランティア団体である。「今、自分達にできることから始めよう！—気になったらレスポンス—」を目標に、住民の健康支援と交流の場づくりを行っている。

2022 年 9 月末現在、担当地域のリーダーを中心に 10 チームで活動している（図 1）。6 チームは、地域住民を対象とした健康支援活動（2 チームはコロナ禍で自粛中）、2 チームは、中小企業の職員を対象とした健康支援活動、生活困窮者（日雇い労働者含む）対象が 1 チームである。活動内容は、バイタルサイン・骨密度（または骨ウェーブ）・体組成・ロコモ度・血管年齢・ヘモグロビン値・握力などを定期的に測定し、健康づくりを支援している。今年度、地域の要請で、経済的孤立や発達障害などの背景を有する親子を対象とした居場所づくりを行なうチームを新たに立ち上げ、活動を開始した。

2. コロナ禍の影響

2020 年以降、新型コロナウイルス感染症拡大により、一時、すべての活動自粛を余儀なくされた。住民の健康支援を目的とする活動が、住民への感染拡大のリスクになりかねないという現実に困惑した。繰り返されるパンデミックの波に、人とのつながりを重視してきた VAG の存続を危惧する声もあがった。先輩から受け継いだ VAG の活動が停滞している状況に、リーダーの責任と無力を感じていた。「気になったらレスポンス！」今、ボランティア団体としてできることはないか？定期的にリーダー会を開催し話し合った。①学生主体で感染対策マニュアルを作成し注意喚起する、②活動の見直しと評価を行い、次回の活動に生かす PDCA サイクルを構築する、③新入生を対象とした学習会の企画（Study VAG）、④担当地域の関係者と Tel で連絡しながら VAG の活動に関する情報提供、⑤地域のワクチン接種会場でのボランティア等に積極的に参加した。感染対策の徹底や参加人数の制限など様々な工夫を行いながら、現在は一部の活動を継続している。看護学生として、学んできた知識や技術を活用して VAG の活動を行う中で、実践力を身につけることや、想定外の状況の中で課題に向き合う体験ができたと感じている。

3. 地域に学び、住民の健康を支援する力を！

VAG の活動で特に印象に残っている 2 つの事例を紹介する。

70 代女性の A 氏は、骨の状態に不安を抱きながら定期的に測定会に参加していた。A 氏の測定結果は、骨密度が低下し同年代との比較においても低く、骨粗鬆症傾向の状態であった。骨密度が気になっていた A 氏は、落ち込んだ表情で肩を落とした。私は、A 氏の普段の生活習慣や日常生活で困っている

ことはないか話を聞くことに努めた。A氏は、日頃から運動はしないこと、膝が痛くて外出する機会が減ったこと、料理は毎日気をつけて行っていること等、気になることを話した。A氏は健康への関心も高く、これ以上悪くならないことを望んでいた。私は講義で習ったことを踏まえ、カルシウムが多く含まれている食品を紹介し摂取することや適度に日光を浴びることを促した。また、膝の痛みがある為、運動不足の対処としてウォーキングを勧めることに躊躇していた。そのため、どのような運動ならA氏が無理なく気軽に運動できるのかについて、一緒に考えることにした。個人的には適切な説明ができたと感じていた。しかし、A氏の反応から満足いく内容ではないことが伺えた。A氏は、実際にどのくらいの量を1日にどのように摂取すれば良いのか、痛みがある時にどのように運動すれば良いのか等、状況に応じた具体的な助言を求めている。このとき私は、講義で学んだ正しい知識であっても、対象者にとって本当に必要な助言とは限らないということ、対象者に合わせた健康指導やアドバイスの難しさを実感した。この体験を通して、住民の方が日常生活で何に困っているのか、どのようなことを意識して生活しているのか、その人の生活に合った健康指導の大切さを学んだ。その後は、調べ学習を行う際、様々な事例を想定して多角的視点を意識するようになった。また、普段から地域に出向いて多くの住民と関わることで、知識や技術不足が見えてくるため自分の課題と向き合う機会となり、学生にとって貴重な学びの場になると実感している。

2つ目は、中小企業の職員を対象に行なっている健康支援活動の事例である。この活動への参加者は、地域に住んでいる住民と企業で働く社員という2つの面を持っており、その両方にアプローチして健康支援活動を行う必要がある。私がこの活動へ参加し初めの頃は、緊張してうまくコミュニケーションを取ることができず、測定するだけで精一杯であった。しかし、参加者は健康意識が高く親しみやすい方が多かったため、回数を重ねるごとに顔を覚えてもらいコミュニケーションが取れるようになっていった。私はこの活動のリーダーも務めていることから測定後の健康相談コーナーを担当することが多く、日常生活の様子を聞いたり仕事でのストレスを聞いたり等、参加者それぞれの健康に影響する要因を知り、そこからどのように改善するかを一緒に見つけることができるようになった。健康相談コーナーの担当を初めた頃は、生活改善などのアドバイスを行ってもなかなか行動変容にはつながらなかったが、信頼関係が築かれていくうちに対象者の行動の癖や考え方が分かるようになり、そこを意識して関わることで参加者の反応が変わっていくことを実感した。また、長期的に参加者のデータを見ると、目標体重に近づいている方や血圧が安定してきている方など、参加者の健康状態の改善が確認できた。私達の活動が参加者の行動変容につながった体験を通して、信頼関係を構築し相手の立場になって考えることで、対象者のニーズにあった支援につながることを実践的に学んでいる。

4. ボランティア体験を活かして

地域での健康支援ボランティア活動は、地域と関わり地域住民の健康の特徴を知ることができ、どのような改善が望ましいのかなど、座学では得られない有意義な学びの体験となった。また、地域での健康づくりの場を共有することで、健康に対する意識の向上や、住民と顔の見える関係性や世代間の交流ができ、沖縄の文化や歴史を学ぶ機会にもつながる。

私は、将来、住民の健康づくりを支援できる保健師として地域に貢献したいと考えている。コロナ禍の中でのVAGのリーダー体験は、改めて自身のキャリアビジョンを描く機会となった。未だ、終息が見通せないウイズコロナ時代の健康支援活動を模索しながら、これからも活動を続けていきたい。

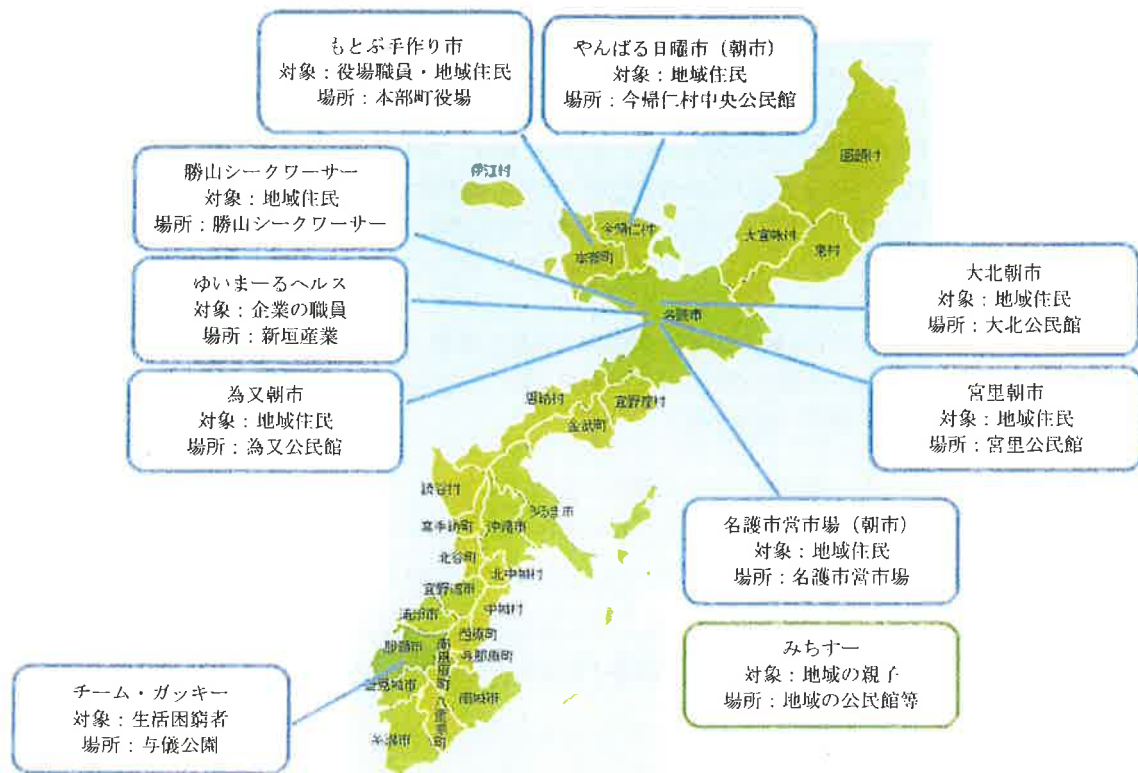


図1. 活動場所

2) 教育活動の取組み

タイトル	学生を対象としたハラスメント防止策について																					
取組の目標	学生を対象としたハラスメント防止策を実施する。																					
取組の内容、 成果	<p>(1) ハラスメントに関する調査について</p> <p>ハラスメントに関する調査は、本学におけるハラスメントの実態を知り、今後のハラスメント防止対策や啓発等の適切な対処法を考え、望ましい修学・研究環境を整えていくこと及び、ハラスメント防止体制を充実させることを目的として、令和4（2022）年度から「ハラスメント・犯罪・薬物被害等に関する調査」として、全学部学生を対象に毎年実施している。ハラスメントに関する質問項目は、学生自身に関すること及び、自由記述を含む全9項目で構成されている。</p>																					
	<p>(2) ハラスメントに関する調査（令和4（2022）年度～令和5（2023）年度）の回答状況について</p>																					
	<p>① ハラスメントに関する調査の基本事項に関する回答状況は次の表（表1参照）の通りである。</p>																					
	<p>表1：調査回答状況（基本事項）</p>																					
	<table border="1" data-bbox="400 672 1364 851"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">対象者数</th> <th rowspan="2">回答率</th> <th colspan="3">内 訳</th> </tr> <tr> <th>男</th> <th>女</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R04</td> <td>2,063人</td> <td>43.9%</td> <td>33.0%</td> <td>66.0%</td> <td>0.8%</td> </tr> <tr> <td>R05</td> <td>2,106人</td> <td>54.8%</td> <td>36.9%</td> <td>62.3%</td> <td>0.4%</td> </tr> </tbody> </table>		対象者数	回答率	内 訳			男	女	その他	R04	2,063人	43.9%	33.0%	66.0%	0.8%	R05	2,106人	54.8%	36.9%	62.3%	0.4%
					対象者数	回答率	内 訳															
		男	女	その他																		
	R04	2,063人	43.9%	33.0%	66.0%	0.8%																
	R05	2,106人	54.8%	36.9%	62.3%	0.4%																
	<p>② ハラスメントに関する各質問項目の内容と回答状況は次の表（表2～参照）の通りである。</p>																					
<p>表2：学内でハラスメント防止を啓発するポスター、チラシ等を見たり、読んだりしたことがありますか。</p>																						
<table border="1" data-bbox="400 952 1120 1086"> <thead> <tr> <th></th> <th>はい</th> <th>いいえ</th> <th>わからない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R04</td> <td>31.5%(285件)</td> <td>35.7%(323件)</td> <td>32.8%(296件)</td> </tr> <tr> <td>R05</td> <td>46.6%(535件)</td> <td>25.9%(297件)</td> <td>27.5%(316件)</td> </tr> </tbody> </table>		はい	いいえ	わからない	R04	31.5%(285件)	35.7%(323件)	32.8%(296件)	R05	46.6%(535件)	25.9%(297件)	27.5%(316件)										
	はい	いいえ	わからない																			
R04	31.5%(285件)	35.7%(323件)	32.8%(296件)																			
R05	46.6%(535件)	25.9%(297件)	27.5%(316件)																			
<p>令和4（2022）年度の調査では32.7%（285人）が「はい」と回答し、令和5（2023）年度では46.6%（535人）が「はい」と回答しており、令和4（2022）年度調査と比較すると増加している。</p>																						
<p>表3：学内にハラスメントに係る相談窓口があることを知っていますか。</p>																						
<table border="1" data-bbox="400 1198 1120 1321"> <thead> <tr> <th></th> <th>はい</th> <th>いいえ</th> <th>わからない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R04</td> <td>15.8%(143件)</td> <td>62.7%(567件)</td> <td>21.5%(195件)</td> </tr> <tr> <td>R05</td> <td>21.7%(250件)</td> <td>57.3%(661件)</td> <td>21.0%(242件)</td> </tr> </tbody> </table>		はい	いいえ	わからない	R04	15.8%(143件)	62.7%(567件)	21.5%(195件)	R05	21.7%(250件)	57.3%(661件)	21.0%(242件)										
	はい	いいえ	わからない																			
R04	15.8%(143件)	62.7%(567件)	21.5%(195件)																			
R05	21.7%(250件)	57.3%(661件)	21.0%(242件)																			
<p>令和5（2023）年度の調査では「はい」と回答した者が21.7%（250人）、令和4（2022）年度より5.9ポイント増加したものの依然低い割合である。</p>																						
<p>表4：あなたは、本学の関係者からハラスメントを受けたことがありますか。</p>																						
<table border="1" data-bbox="400 1433 1252 1590"> <thead> <tr> <th></th> <th>はい</th> <th>いいえ</th> <th>わからない (判断が付かない問題を含む)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R04</td> <td>1.1%(10件)</td> <td>94.6%(857件)</td> <td>4.3%(39件)</td> </tr> <tr> <td>R05</td> <td>1.4%(16件)</td> <td>95.1%(1094件)</td> <td>3.5%(40件)</td> </tr> </tbody> </table>		はい	いいえ	わからない (判断が付かない問題を含む)	R04	1.1%(10件)	94.6%(857件)	4.3%(39件)	R05	1.4%(16件)	95.1%(1094件)	3.5%(40件)										
	はい	いいえ	わからない (判断が付かない問題を含む)																			
R04	1.1%(10件)	94.6%(857件)	4.3%(39件)																			
R05	1.4%(16件)	95.1%(1094件)	3.5%(40件)																			
<p>令和4（2022）年度の調査では1.1%（10人）が「ある」と回答、4.3%（39人）が「かわらない」と回答。令和5年（2023）年度の調査では1.4%（16人）が「ある」と回答、3.5%（40人）が「わからない」と回答しており、令和4（2022）年度調査と比較すると微増している結果となった。</p>																						
<p>表5：あなたが受けたハラスメント（判断がつかない問題も含む）は、次のどれだったと思いますか。（複数回答可）</p>																						
<table border="1" data-bbox="400 1780 1225 1971"> <thead> <tr> <th></th> <th>セクシャル・ハラスメント</th> <th>アカデミック・ハラスメント</th> <th>パワー・ハラスメント</th> <th>わからない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R04</td> <td>6.5%(3件)</td> <td>17.4%(8件)</td> <td>30.4%(14件)</td> <td>56.5%(27件)</td> </tr> <tr> <td>R05</td> <td>9.8%(5件)</td> <td>23.5%(12件)</td> <td>15.7%(8件)</td> <td>54.9%(28件)</td> </tr> </tbody> </table>		セクシャル・ハラスメント	アカデミック・ハラスメント	パワー・ハラスメント	わからない	R04	6.5%(3件)	17.4%(8件)	30.4%(14件)	56.5%(27件)	R05	9.8%(5件)	23.5%(12件)	15.7%(8件)	54.9%(28件)							
	セクシャル・ハラスメント	アカデミック・ハラスメント	パワー・ハラスメント	わからない																		
R04	6.5%(3件)	17.4%(8件)	30.4%(14件)	56.5%(27件)																		
R05	9.8%(5件)	23.5%(12件)	15.7%(8件)	54.9%(28件)																		
<p>令和5（2023）年度調査では、令和4（2022）年度調査と比較すると、セクシャル・ハラスメントの回答が6.5%(3件)から9.8%(5件)の2件増加、アカデミック・ハラスメントの回答が17.4%(8件)から23.5%(12件)の4件増加している。</p>																						

表6：あなたがハラスメント（判断ができないものも含む）を受けた際、誰かに相談しましたか。
（複数回答可）

	相談して いない	大学の 友人	家族	大学の 教職員	学内の相談窓口 （総務課/学生課）	保健センター （学生相談室）	部活・サー クルの顧問
R04	32.6% (15件)	47.8% (22件)	30.4% (14件)	21.7% (10件)	2.2% (1件)	4.4% (2件)	4.4% (2件)
R05	32.7% (16件)	51.0% (25件)	30.6% (15件)	12.2% (6件)	4.1% (2件)	4.1% (2件)	6.1% (3件)

令和4（2022）及び令和5（2023）年度の調査において、ともに相談相手として「大学の友人」、「家族」が多く、「学内の相談窓口」、「保健センター」の割合が極端に少ない状況である。一方では、ハラスメントを受けても「相談していない」学生が一定数いる状況が確認できる。

表7：あなたやあなたの友人に発生したハラスメントの被害について、差し支えなければその時の状況や様子について記述してください。（任意自由記述）

※ 自由記述のため、次のカテゴリー別に分類を行った

	記述件数	教員からのハラスメン トと思われる記述	ハラスメントに該当し ないと思われる記述	ハラスメントと思われ るが分類不可の記述
R04	11件	5件	4件	2件
R05	12件	7件	4件	1件

（3）学生を対象としたハラスメント防止策に対する取組み内容、成果について

① 学内におけるハラスメントに関する周知不足について

上述（2）の質問項目に係る表2及び表3の調査結果から、学生サポート委員会では、学生へのハラスメントに関する周知不足、及び手続等体制の認知度について課題があるとした。当該課題を踏まえ、令和5（2023）年度から改善に向けた取組みを行った。本学では以前より、ハラスメントに関する周知方法として、リーフレットの配布、及びホームページの活用により学生への周知を図っていたが、ホームページ内でハラスメントに関するページを見つけ難いという意見があったことから、ホームページ上でのアクセスの見直しを行った。この取組みにより、「学内にハラスメントに係る相談窓口があることを知っていますか」の質問に対する肯定的回答は令和5（2023年度）の結果21.7%となり、令和4（2022）年度より5.9ポイント増加した。しかし、5人に1人しか相談窓口を知らない状況であることを踏まえ、引き続き、対応策を検討していくこととしている。

（4）今後の学生を対象としたハラスメント防止策に対する取組みについて

学内におけるハラスメントの周知不足に対する取組みとして、令和6（2024）年度では、新入生オリエンテーション時にハラスメントに関するリーフレットの配布、また、講義棟、学生会館（SAKURAUM）、多目的ホール内の全トイレに啓発用チラシの掲示、並びにカードサイズの携帯用（ハラスメント相談窓口連絡先が記載されたもの）カードの設置を行っている。さらに、学生が主体的に実施するハラスメントに関する講習会の開催を学生サポート委員会支援の下、企画を進めているところである。

自己評価

令和4（2022）及び令和5（2023）年度の調査結果において、ハラスメントに関する基本的な事項並びに、本学のハラスメントに対する取組み状況（相談窓口や相談方法）に関し、学生の認知度が依然と低いことを受け、学生を対象としたハラスメント防止策の実施については、引き続き、入学時や学期開始時のオリエンテーションを活用する等、定期的に周知する機会を増やす等の工夫を行い、対策の強化が必要である。また一方では、本ハラスメントに関する問題については、学生自身も被害者にも、また加害者にもなる立場上、学生自身としての問題意識をしっかりと持ってもらうことが必要であるとし、学生サポート委員会支援の下、体育会等の学生団体が主体的に講習会等を開催することが有益である。

ハラスメント相談 問題解決の流れ



ハラスメントに 関する相談窓口

ハラスメントに関する相談は下記にて受け付けています。

相談窓口

学生相談室・保健室・学生課・学生課・総務課

✉ メール相談
soumu@meio-u.ac.jp

☎ 電話相談
0980-51-1100 (総務課)
0980-51-1057 (学生課)
0980-51-1066 (学生相談室・保健室)

📠 FAX相談
0980-52-4640 (総務課)
0980-51-1124 (学生課)

📄 手紙相談
〒905-8585
公立大学法人名桜大学
「総務課長」宛て (親展)

良好な学び・教育研究・
就労職場環境の回復

公立大学法人 名桜大学

〒905-8585 沖縄県名護市宇高又1220-1

TEL: 0980-51-1100

E-MAIL: soumu@meio-u.ac.jp

STOP!

ハラスメントのない
キャンパスへ

ハラスメントのない キャンパスへ向けて

あなたが加害者にならないために

1. 受け止め方には個人、男女や立場等により差があります。客観的な視点で判断するように留意しましょう。
2. 相手が嫌がっていることがわかった場合には、同じ言動を繰り返さないようにしましょう。
3. 相手からいつも明確な意思表示があるとは限らないことを認識しましょう。
4. 自分の持つ力や優位な立場に留意しましょう。

名桜大学では、良好な大学環境を確保し、本学の構成員であるすべての学生等及び教職員等の権利を保護するためにハラスメント対策に努めます。



学生等

学群・学部生、大学院生、研究生、科目等履修生、聴講生、公開講座等本学で教育を受ける者

教職員等

本学で就労する常勤、非常勤、臨時、派遣職員、アルバイト等勤務形態を問わず本学に在職する者及び外部委託等の勤務者を含め、大学キャンパス内で就労するあらゆる勤務形態の者

ハラスメントを 起さないために

大切なのはお互いの価値観やひとりひとりの個性を認め合うことです。立場が違ってもお互いに認めあい、個人の人格や価値を尊重しあえるキャンパスをめざしましょう。

あなたが ハラスメントを うけたら…

可能なら「嫌だ」「やめて」という意思を相手に伝えましょう。「いつ、どこで、だれに、何をされた、どう思った」を記録しておきましょう。ひとりで悩まず、信頼できる人や相談窓口へ話してみてください。

| 守秘義務

相談者の名前・相談内容等のプライバシーは守られます。正当な理由無く、本人の同意や承諾無しにこれを漏らすことはありません。

| 不利益な扱い

相談したことを理由として、相談者が不利益を被ることはありません。

ハラスメントとは

セクシャルハラスメント

雑誌等の卑猥な写真・記事等を見せたりする。執務に飲食やデザートに誘うなど固定的性別役割意識に基づく言動を繰り返す。個人の性的志向を誹謗、誹謗中傷したり、排斥、冷遇したりする。

パワーハラスメント

皆の前でミスを激しく叱責したり、必要以上に長時間にわたり執務に注意や叱責する。必要な電話やメールを無視する。メールや回覧物を回さない、挨拶を無視する。研究室の行事に誘わない、あるいは参加を拒否する、など。私的な用事をさせたリ、プライベートな行動に付き合うことを強要する。プライベートな時間帯に、不必要に電話等をかける。

アカデミックハラスメント

教育研究指導を拒否したり、学生が求めるアドバイスをせせりに放置する。客観性、公平性に欠ける成績評価を行う。研究データの捏造、改ざんを強要する。

その他ハラスメント

- ・アルコールハラスメント
- ・モラルハラスメント
- ・マタニティハラスメント e.t.c.

気づかない内に、ハラスメントになっているかも？！

思いやりと配慮ある言動・行動を！

ハラスメントの被害にあったら…

ひとりで悩まず周囲や学生相談室に相談しましょう

①悪いのは相手、自分を責めない
私が悪かったのかな…
ちがうよ！悪いのは加害者だよ！

②リラックスして
これからどうしたらいいんだろう…
落ち着いて！まずは起こったことを整理して、どうしたらいいか考えよう

③記録を取る
状況をメモして、目撃者がいないか確認しよう。
後で誰かに相談するときにも役立つよ
「いつ」「どこで」「誰から」「何をされたのか」をメモしよう。

④最終的にどうするか、決めるのはあなた
選択肢はたくさんあるので、より良い結果になるように、落ち着いて考えよう
「やめてほしい」と伝える
距離を取る
より良い解決策を探る

⑤誰かに相談する
一人で悩まず、相談室やキャンパスセクハラ全国ネットなどを活用して！
信頼できる相手に話すことが大事！
大学の窓口
友人

⑥知り合いが被害にあったら
まずはじっくり話を聞いてあげてください。
NG 被害にあった人を責める
NG 先走って勝手に行動する
お友達が自分で決められるように手助けしましょう

取材協力：キャンパス・セクシュアル・ハラスメント・全国ネットワーク (<http://cshnet.jp/>) 会員 福島大学教員 高橋 準さん

▶ 自分の何気ない発言や行動が、相手にとってはハラスメントと感ずることがあります。

▶ 他人と自分は感じ方が違うことを認識して、配慮ある接し方をすることがハラスメント防止になります。

名桜大学 ハラスメント相談窓口

- ◎ 総務課 📍本部棟3F ☎0980-51-1100
- ◎ 学生課 📍多目的ホール2F ☎0980-51-1057
- ◎ 学生相談室・保健室 📍多目的ホール1F ☎0980-51-1066



引用：2024年度版新入生へのメッセージ（企画・編集：大明出版）

掲示：学生サポート委員会（学生課）

気づかない内に、ハラスメントになってきているかも？！ 思いやりと配慮ある言動・行動を！

セクシャルハラスメント

(先輩や後輩、同性間、男子学生と女子学生などの場合)

最近、ハラスメントが増えたよね

そうかな？ 気にしすぎじゃない？

知ってる？ これも実はハラスメントになるんだよ

やった本人の意思は関係なくて、相手を不快にさせてしまう行為がハラスメントなんだ

他にもハラスメントにはこんな例があるよ

飲み会の場で抱きつく

おはよう！

大学キャンパス内で挨拶しながら異性の背中を叩く

女性の胸について指觸する

同性愛者の人達をからかう

どれもぶざげたノリでやっちゃダメなことだね

そうそう、私たちも気を付けないといけないね

アカデミックハラスメント

(教員と学生の場合)

アカデミックハラスメントって知ってる？

アカデミック…学校絡みのハラスメント？

そうそう。大学生の身近に潜んでいるハラスメントの1つなんだよ

そんなのがあるの？

教員と学生のハラスメントにはこんな例があるよ

アカデミックハラスメントは他にも沢山ありそうだね

コンパの席で異性にお酒を強要する

テートや食事し相手をして誘う

講義中に卑猥な発言をする

隠れたアカデミックハラスメントは他にも沢山ありそうだね

自分が加害者にならないように日々の言動に注意が必要だね！

ハラスメントの被害にあったら… ひとりで悩まず周囲や学生相談室に相談しましょう

①悪いのは相手、自分を責めない
私が悪かったのかな…
ちがうよ！悪いのは加害者だよ！

②リラックスして
これからどうしたらいいかならう…
落ち着いて！まずは起こったことを整理して、どうしたらいいか考えよう

③記録を取る
状況をメモして「誰から」「何をされたのか」をメモしよう。
「いつ」「どこで」
後で誰かに相談するときに役立ちますよ

④最終的にどうするか、決めるのはあなた
選択肢はたくさんあるので、より良い結果になるように、落ち着いて考えよう
「やめてほしい」と伝える
距離を取る
より良い解決策を探る

⑤誰かに相談する
一人で悩まず、相談室やキャンパスセクハラ全国ネットワークを活用して！
信頼できる相手に話すことが大事！
大学の窓口
友人

⑥知り合いが被害にあったら
まずはじっくり話を聞いてあげてください。
NG 被害にあった人を責める
NG 先走って勝手に行動する
お友達が自分で決められるように手助けしましょう

- ▶ 自分の何気ない発言や行動が、相手にとってハラスメントと感ずることがあります。
- ▶ 他人と自分は感じ方が違うことを認識して、配慮ある接し方をすることがハラスメント防止になります。

名桜大学 ハラスメント相談窓口

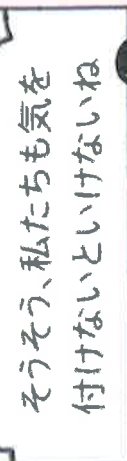
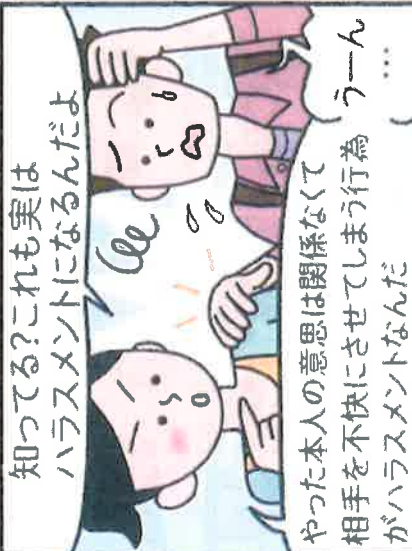
- ◎ 総務課 ☎ 本館5F ☎ 0980-51-1100
- ◎ 学生課 ☎ 本館4F ☎ 0980-51-1057
- ◎ 学生相談室・保健室 ☎ 多目的ホール1F ☎ 0980-51-1066



提示：学生サポート委員会（学生課）

気づかない内に、ハラスメントになっているかも？！ 思いやりと配慮ある言動・行動を！

セクシャルハラスメント (先輩や後輩、同性間、男子学生と女子学生などの場合)



取材協力：キャンパス・セクシュアル・ハラスメント・全国ネットワーク (http://cshnet.jp/) 会員 福島大学教員 高橋 洋 さん

- ▶ 自分の何気ない発言や行動が、相手にとってはハラスメントと感ずることがあります。
- ▶ 他人と自分は感じ方が違うことを認識して、配慮ある接し方をすることがハラスメント防止になります。

名城大学 ハラスメント相談窓口

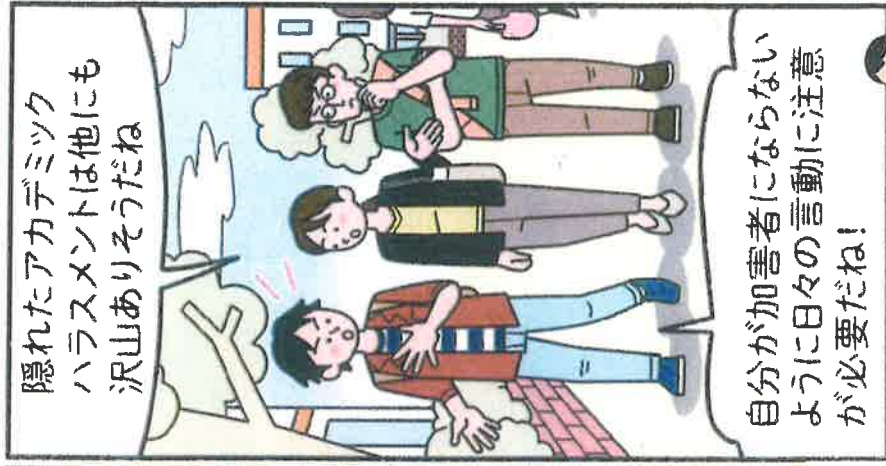
- ◎ 総務課 ☎ 本館5F ☎ 0980-51-1100
- ◎ 学生課 ☎ 本館4F ☎ 0980-51-1057
- ◎ 学生相談室・保健室 ☎ 多目的ホール1F ☎ 0980-51-1066

引用：2024年度版新生へのメッセージ (企画・編集：大明出版)

掲示：学生サポート委員会 (学生課)

気づかない内に、**ハラスメント**になっているかも？！
思いやりと配慮ある言動・行動を！

アカデミックハラスメント (教員と学生の場合)



取材協力：キャンパス・セクシュアル・ハラスメント・全国ネットワーク (http://eshnet.jp/) 会員 福島大学教員 高橋 準 さん

- ▶ 自分の何気ない発言や行動が、相手にとってはハラスメントと感ずることがあります。
- ▶ 他人と自分は感じ方が違うことを認識して、配慮ある接し方をすることがハラスメント防止になります。

引用：2024年度版新生へのメッセージ (企画・編集：大明出版)

名城大学 ハラスメント相談窓口

- ◎ 総務課 ☎ 0980-51-1100
- ◎ 学生課 ☎ 0980-51-1057
- ◎ 学生相談室・保健室 ☎ 多目的ホール1F ☎ 0980-51-1066

掲示：学生サポート委員会 (学生課)

名刺サイズのカード

表面



裏面

